

平成26年度 京都府立大学地域貢献型特別研究 (ACTR) 成果

分類 番号	A33	取組 名称	天橋立の近代史と保養：水際の保養文化に関する史的国際研究
研究代表者：		生命環境 学部（研究科）	職・氏名： 講師・松田法子
研究担当者：			
京都府立大学（青地伯水、阿部拓児、井上直樹、上杉和央、岸本恵実、藤本仁文、安達伶奈、宮下遥（敬称略） 外部分担者・協力者（宮津市教育委員会 河森一浩氏 ほか）			
主な連携機関（所在市町村、機関（部署）名）			
京都府宮津市（教育委員会生涯学習課）			
【研究活動の要約】			
<p>本研究は、①天橋立の保養観光地としての特質や価値を国内外の比較を通じて明らかにすること、②シンポジウムなどの成果公開事業を通じて地域住民や府民にひろく研究成果の周知をはかること、の大きく2点を目的に活動した。〔a〕学内における定期研究会の開催、〔b〕現地調査の実施および文化的関係事業への参加（7月）、〔c〕現地ミニシンポジウムの開催（1月）などを行うことで、①・②に資するための学際的な共同研究を進め、その成果公開を行った。また、地域に残る絵はがきや古写真などの史料調査を実施して分析を行ったほか、天橋立と全国の近代保養地との比較研究を行うため、近代に開設された海水浴場の創始時期・所在地調査を進め、近代海水浴場の全国的展開について研究的にもはじめて明らかにしたほか、これらと天橋立海水浴場との関係について検討した。</p>			
【研究活動の成果】			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 宮津市魚屋町の清輝楼を会場として成果公開・地域還元のためのミニシンポジウムを開催し、今年度の研究成果を代表して計2本の報告と司会者含め5名によるパネルディスカッションを行った（〔報告〕松田法子・安達伶奈「海水浴場の全国的展開と天橋立」、宮下遥「近代橋立の名所をめぐる行為とメディア」〔パネルディスカッション〕「保養地と歴史的遺産をめぐる国際比較」）。 ・ 同シンポジウム報告終了後には地域住民からの質疑応答及び意見交換の場を設け、本研究会の次年度以降の活動に関する希望・要望やさらなる連携に向けた意見聴取を行った。 ・ 定期研究会では各メンバーが進めている調査研究について情報共有をはかるとともに、刊行物の制作など今後の成果公開に向けた議論と準備を進めた。 ・ 前年度に行った宮津市教育委員会の所蔵絵はがき数百点の調査・スキヤニングに加え、今年度は同市にある京都府立丹後郷土資料館の所蔵絵はがきについても調査を実施した。また講演会参加者から地元郷土史家などが所蔵する絵はがき資料についての情報も収集した。 ・ 近代海浜保養地としての橋立の位置づけを明らかにするため、戦前期に開設された全国の海水浴場について網羅的に調査し、デジタルマップ上およびテキスト形式でデータベースを整備した。 			
【研究成果の還元】			
<ul style="list-style-type: none"> ・ H26/07/21 於：宮津市河原町旧三上家住宅 ※関係者3名、地域住民約25名が参加 「史料としての橋立絵はがき」（招聘講演） ・ H26/07/19～08/03 於：宮津市河原町旧三上家住宅 「絵はがきからみた府中と天橋立」（展示指導） ・ H27/01/12 於：宮津市魚屋町清輝楼 ※関係者7名、地域住民26名が参加 京都府立大学地域貢献型特別研究 (ACTR) ミニシンポジウム「続 保養地としての天橋立考」 ・ 報告書等：次年度以降の刊行物制作を目指している。 			
【お問い合わせ先】			
Tel: 075-703-5434		生命環境学部（研究科） 松田研究室	講師・松田法子
		E-mail: matsuda@kpu.ac.jp	

参考（イメージ図、活動写真等）

ポスター画像

- ◆2014年7月21日／講演会「史料としての橋立絵はがき」（左）
- ◆2015年1月12日／現地ミニシンポジウム「続 保養地としての天橋立考」（右）

重要文化財
旧三上家住宅

平成26年度ミニ展示Ⅰ
「重要文化的景観選定記念 絵はがきからみた府中と天橋立」

7月19日（土）から8月3日（日）



◆関連イベント◆
特別講座「絵はがきの見方 ー歴史資料としてー」
講師：松田法子（京都府立大学生命環境研究科 講師）
日時：7月21日（祝月）午後2時から
※聴講に当っては、入館料が必要です。
※講座修了後、教育委員会の担当者による展示解説を行います。

◆開館時間◆午前9時から午後5時（入館は午後4時30分まで）
◆休館日◆年末年始 ◆観覧料◆一般350円 中学生以下250円
〒626-0014 京都府宮津市宇河原1850 電話：0772（22）7529
ホームページ：http://www.amanohashidate.jp/mikamike/
お問合せ先：（公社）天橋立観光協会 0772（22）8030

歴史と文化資源から未来の地域づくり



京都府立大学地域貢献型特別研究（ACTR）ミニシンポジウムⅡ
続 保養地としての天橋立考

ー保養・海水浴・観光の歴史から考える天橋立

開催日：2015年1月12日（月・祝） 14:00-16:00
会場：清輝楼 3階大広間（宮津市魚町屋937）

天橋立は古代からナドコロや名所として知られてきました。しかし海水浴場としての展開など、現在の橋立に直接つながる近代の諸相についてはまだほとんど明らかにされていません。

今回は京都府立大学地域貢献型特別研究（ACTR）2年目の成果報告として、旅館・清輝楼を会場にミニシンポジウムを開催します。

【プログラム】
開会挨拶
パートⅠ 研究報告：保養観光地 天橋立の誕生
報告1 松田法子（京都府立大学・専任講師）・安達伶奈（同・学生）「海水浴場の全国的展開と天橋立」
報告2 宮下 遥（同・学生）「近代橋立の名所をめぐる行為とメディア」
パートⅡ パネルディスカッション：保養地と歴史的遺産をめぐる国際比較
パネラー 阿部拓児・井上直樹・岸本恵実・松田法子（以上京都府立大学教員）
司会 上杉和央（同上）
コメント・質疑応答
コメントーター・司会 河森一浩（宮津市教育委員会）
閉会挨拶

【主催】京都府立大学地域貢献型特別研究（ACTR）保養地研究会 【共催】宮津市教育委員会

新聞記事・会場写真

- ◆2015年1月12日／ 現地ミニシンポジウム「続 保養地としての天橋立考」
- ◆2015年1月13日／京都新聞掲載記事（丹後中丹地方面）



体と心癒やす保養地とは？

天橋立観光 景観生かして

府立大が「特別研究」シンポ

近代の流れたどる

京都府立大が、自活して、天橋立の景観を生かして観光地として発展させるべく、シンポジウムが12日、宮津市魚町屋の旅館・清輝楼で開かれた。市民ら約30人が、近代における海水浴と観光の発展や歴史の保養地との比較から、天橋立を盛り上げるべく、体と心癒やす保養地とは？

京都府立大が、自活して、天橋立の景観を生かして観光地として発展させるべく、シンポジウムが12日、宮津市魚町屋の旅館・清輝楼で開かれた。市民ら約30人が、近代における海水浴と観光の発展や歴史の保養地との比較から、天橋立を盛り上げるべく、体と心癒やす保養地とは？

京都府立大が、自活して、天橋立の景観を生かして観光地として発展させるべく、シンポジウムが12日、宮津市魚町屋の旅館・清輝楼で開かれた。市民ら約30人が、近代における海水浴と観光の発展や歴史の保養地との比較から、天橋立を盛り上げるべく、体と心癒やす保養地とは？